京都府ナースセンター通信　2026 年　10 月号

ふれあい看護体験について

ふれあい看護体験は、毎年「看護の日」の事業として、中学生や高校生の夏期休暇中に開催しています。医療機関関係者および患者さんとのふれあいを通して、看護することや人の命についての理解と関心を高める機会を提供し、看護の道へ進むきっかけや目標につながることを願って実施しています。

今年度から、過去にふれあい看護体験を経験された方も参加できるようにしました。

７月 21 日～8 月 22 日の期間に、97 病院・７訪問看護ステーションで中学生５人・高校生 313 人が看護を体験し、実施施設も体験者も昨年度より若干増えました。

各施設が工夫を凝らしたプログラムを設定し、体験者を迎えています。



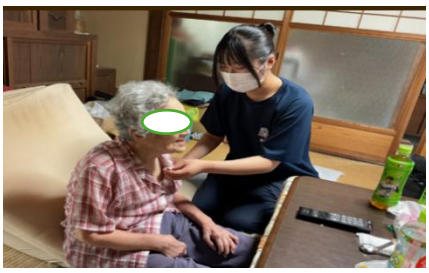
北山武田病院
食事介助の体験



京都民医連あすかい病院
肺音聴取体験



京都田辺中央病院
手術台での患者体験



天の橋立訪問看護ステーション　利用者さんとの会話



京都協立病院　ストレッチャー体験

参加した方の 94％が「有意義な体験になった」、91％が「看護職になりたいと思う」という結果でした。

【体験者の感想】

- 今までは看護師のイメージがつきにくかったが、今回の体験で看護師という職業について深く知ることができ、将来こういう看護師になりたいというイメージがより具体的になった。
- 実際にどのような仕事内容なのかを知ることができた。病院にはさまざまな役割を担った看護師さんがいて、病院が安全・安心な環境になるよう協力して行動している姿を見て、改めて看護師になりたいと思った。
- 患者さん一人ひとりに寄り添うことはとても大切なのだと感じた。自分が思っていたよりも何倍も大変そうだなと思ったが、看護師になりたいという気持ちが高まった。
- 初めて訪問看護を体験した。これまで体験したことのある病院とは違った形で患者さんに関わることができ、とても貴重な体験だった。看護にさまざまな活動の場所があることを知ることができ、より一層将来看護の仕事に関わりたいと感じた。

体験を通して多くの方に看護のやりがいや大変さを実感していただけたようでした。

温かく迎えていただき、看護の心を伝えていただいた施設の皆様、ありがとうございました。来年度もよろしくお願いします。猛暑の中、頑張って体験された皆様、お疲れ様でした。ぜひ一緒に看護の道を歩みましょう。